○外崎浩子委員長　続いて、立憲・無所属クラブの質疑を行います。
なお、質疑時間は、答弁を含めて十分です。渡辺忠悦委員。
○渡辺忠悦委員　内部統制について、村上委員や坂下委員と重なっていまして、私の質問第一は、こういうふうに答弁を理解したのだけれども、いいのかを確認します。大体はまともだけれども、少しだけ間違いがあったという答弁だったのですよね。
○村井嘉浩知事　大体、ほぼ大丈夫なのですけれども少しミスがあった、でもそのミスがあったことによって大きなミスにつながる可能性があるので、気を引締めてやっていかなければならないと考えているという答弁でございました。
○渡辺忠悦委員　二番目で、重大な不備の発生原因として、職員の知識不足や組織の余力不足などの課題が挙げられております。内部統制上、各所属において現在どのような内部統制を行っていらっしゃるのか具体的な現状について教えてください。
○大森秀和会計管理者兼出納局長　内部統制における各所属のチェックといたしましては、業務手順・進行管理の見える化・共有化やチェックシートを活用した複数人でのチェック、根拠法令・マニュアル等の適合の確認など、それぞれの所属で工夫をしながら不備の発生防止に努めております。不備の総件数は減少しているものの重大な不備が増加しており、その要因として、所属によっては職員が日々の業務対応に追われ、業務知識の習得不足のほか、業務に応じたチェック体制の整備そのものが十分でないことや、体制整備が図られてはいるものの運用面に課題があるなどの状況が発生しているものと認識しております。
○渡辺忠悦委員　言葉尻をとるわけじゃないですけれども、公認会計士の勉強会というか、お勧めの内部統制の考え方は、財務報告の信頼性の確保、業務の効率性・有効性、法律遵守プラス資産の保全と書いています。これ、もう少し広く、公認会計士だけでなくて内部統制をもう少し広げると、言葉尻とって悪いけれども、本来は知識不足という項目が出てくるのはおかしいと書いてある。それは職務分掌であり、チェック体制であり、そういうのが不備だからではないかと、それは組織の問題だという言い方がされているのです。答弁をお願いします。
○村井嘉浩知事　当然、個々の資質によるものもあるのですけれども、知識不足というよりも、そういったものがあることを前提に、組織全体でしっかりとカバーできる体制

をつくっていくことが、この県庁においては大切なことだと思います。そのとおりだと思います。

○渡辺忠悦委員　そういう意味では、内部統制というのは非常に難しくて、広範囲で、県政そのものだと私自身は理解をしています。民間企業でいうと経営そのものが内部統制というくくりでくくれるのだろうなという思いでおります。ですから、監査委員とか企画部とか出納局で、内部統制という言葉だけで済ませてしまっているというのも、ちょっと私が言うのもなんなんですけれども、もう少しその細かいアドバイスがあってもいいのかなという思いと同時に、チェック体制を何段階にも重ねていいのか、今度はＢ／Ｃの問題が必ず出てくると思います。その辺について、私自身考えているのは、ＩＣＴ統制、デジタル統制も入っているという言い方を監査委員が指摘されていますけれども、その機器と、これがどれぐらい職員の仕事のサポートになっておられるのか、その現状をまず教えていただきたいです。

○大森秀和会計管理者兼出納局長　内部統制の整備・運用に当たっては、やはりＩＣＴの活用も大変重要な視点でございまして、県の内部統制行動計画の中の基本要素の一つとして、ＩＣＴへの対応を位置づけております。具体的には、情報セキュリティーポリシーに基づくＩＣＴ統制になっておりまして、各種財務をはじめといたしましたシステムの運用がまず一番大きいところでございますが、加えて、県では宮城県庁生成ＡＩ活用五原則を制定いたしまして生成ＡＩの活用を推進しているところでございます。我々の会計事務部門におきましても、先月から収入事務や物品管理、内部統制に関する生成ＡＩのチャットボットを全職員で使えるように作成いたしまして、知識不足への対応だったり業務効率化のための試行を始めたところでございます。県といたしましては、今後もそういった生成ＡＩ、チャットボットの活用によって会計知識等の不足への対応、若しくは内部統制の仕組みとしての優良事例の横展開、更にはノーコードツールの活用による効率的な事務処理対応も進めてまいりたいと考えております。

○渡辺忠悦委員　すごくいいお話をお聞きしましたので、これに時間軸を重ねられないかなと思っています。例えば、国からの補助金について申請を忘れたというものが何件か指摘されていますよね。申請したものについて、チェックして時間軸で出てくる、時間をオーバーしないような仕組みがもしあれば非常に便利だと思っていますけれども、

所感をお願いします

○大森秀和会計管理者兼出納局長　国庫補助の取りまとめが各所属にまたがってしまったりというところで、それらが現状として全てシステムの中で一貫的にチェックできる状況にはなっていない実態がございます。今後に向けて、そういったところのシステム対応もしっかりできるのか研究してまいりたいと考えております。

○渡辺忠悦委員　次、行政評価について、評価が県民の感覚と少しずれがあるのではないかと思うのです。人によっては、今の流れでいいから現職を書きますとの話も私は聞いたのですけれども、もう一方では、県の産出額は上がっていますが、町場の商工会から商店がなくなってくる状態で、誘致企業の働きがあるとの報告もありました。けれども一方で、果たして一次産業、農林水産業などが絡んだ地域経済が果たしてどうなのかなという。この辺の民意の救いがうまくこの評価と成果で表し切れているのかなという思いがございます。その辺でコメントいただければありがたいです。

○村井嘉浩知事　間違いなく、今まで二十年かけてやってきた施策の効果が出てきていると思うのですが、それ以上に人口減少・少子高齢化のマイナスの影響のほうが大きい。その結果、中心部から離れれば離れるほど衰退が顕著になっていると思います。それを少しでも抑えるために、今やっていることを、更にしっかりと力を注いでいかなければならないと思っております。いずれにしても、組織全体でやらなければいけませんので、内部統制の不備があったと言われることのないようにしながら全庁挙げて努力してまいりたいと思います。